

最新のリウマチ・膠原病診療

埼玉医科大学リウマチ膠原病科

三村俊英

関節リウマチや膠原病などは、主に自己免疫が関与すると考えられる慢性炎症性疾患であり、治療法は対症療法および副腎皮質ステロイドを含む非特異的な免疫抑制治療が主であったが、近年大きな変化が見られている。特に関節リウマチ治療においては、腫瘍壊死因子（TNF）やインターロイキン6（IL-6）などの炎症性サイトカイン阻害薬、獲得免疫細胞であるT細胞刺激抑制やB細胞除去を行う薬剤など、生物学的抗リウマチ薬の出現が治療を一変させた。早期の活動性抑制のみならず関節破壊抑制効果も極めて強く、予後も大きく変わりつつある。しかし、治療の継続が多くの症例で必要である事、一般感染症や結核菌活性化など日和見感染の危険性が高まる事も明らかとなり、高い薬剤費であることも考慮され、予後予測や活動性の適格な評価など今後の治療戦略には更なる検討が必要と考えられる。本講義においては、最新のリウマチ・膠原病治療の優れた点とともに問題点にも触れることで、聴衆の理解を深めるように配慮したい。